児側からみた産科施設改善のための問題点
分娩室内管理のあり方

東京慈恵会医科大学小児科
前川　喜平

今年度は分担課題に対し協力班員及び慈恵関係の新生児関係者で，この問題を討議し児側からみた産科施設，現在の問題点について括めた。児側の児を新生児と小児科の両方より解釈しておこなった。本年度は香月が施行した周産期死亡７以下の施設に周産期死亡が低い理由をたずねたアンケートの回答結果をもとにして，以下の点を問題点とした。

1. 妊娠中の妊婦の管理の問題
2. 産科，小児科，助産婦，看護婦などの人員の問題
3. 産科施設の設備，システムの問題
4. 地域医療システム整備の問題（転送システムも含める）
5. 分娩監視装置などによる，異常の早期発見と処置に関する問題
6. 他科，ことに小児科医との協力体勢の問題

来年度は，一般病院も含めた新生児関係小児科にアンケート調査をおこない，施設の大きさによりこの問題点が如何にことなるかを括め，これにもとづいて分娩室内管理のあり方の案を，施設の規模に従って括める予定である。

胎児副腎機能監視の必要性

富山医科薬科大学医学部産婦人科
柳沼　悉

最近，分娩前における胎児の監視は，その心機能を通して十分に行われるようになって，この面ではほぼ完成に近いまで達したと思われる。すなわち陣痛開始前にはnon-stress testあるいはstress（oxytocin）testに対するその反応として，その変化を観察し，陣痛中には子宮収縮に対する反応として，それが連続監視されている。陣痛中にもしも子宮口が開大し破水したならば，児頭採血が行われ血液のpHの変化が検索されることもある。

陣痛がもしも胎児に対して直接的にあるいは間接的にせよstressとして作用するならば，一般にstressの作用として知られているように，胎児の副腎機能に当然影響を及ぼすと考えられる。それ故，陣痛の胎児に対する影響をこの面から研究することも重要である。そこで胎児の副腎機能をその娩出直後にチェックすることは，胎児が陣痛中（分娩経過中）に受けたストレスに対する反応の総合を知りうるであろう。さらに新生児のその後に発生した異常の把握に役立ちうると思われる。

このような研究の第一歩として，この研究においては，胎児副腎機能として，その血中cortisolを，陣痛のストレスの大きさとして陣痛時間を指標とし，これらの間の相関の有無を検討した。

研究材料と方法

正常妊娠を経過し，妊娠38〜42週において陣

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

今年度は分担課題に対し協力班員及び慈恵関係の新生児関係者で,この問題を討議し児側からみた産科施設,現在の問題点について括めた。児側の児を新生児と小児科の両方より解釈しておこなった。本年度は香月が施行した周産期死亡7以下の施設に周産期死亡が低い理由をたずねたアンケートの回答結果をもとにして,以下の点を問題点とした。

1.妊娠中の妊婦の管理の問題
2.産科,小児科,助産婦,看護婦などの人員の問題
3.産科施設の設備,システムの問題
4.地域医療システム整備の問題(転送システムも含める)
5.分娩監視装置などによる,異常の早期発見と処置に関する問題
6.他科,ことに小児科医との協力体勢の問題

来年度は,一般病院も含めた新生児関係小児科にアンケート調査をおこない,施設の大きさによりこの問題点が如何にことなるかを括め,これにもとづいて分娩室内管理のあり方の案を,施設の規模に従って括める予定である。